

都会でも田舎でもないまち

～生活の拠点としての魅力～



上里町町制施行50周年記念 特集

「ともに歩んだ50年」

町民の皆さまと振り返る上里町が歩んだ軌跡



中原 美春さん(四丁目)

昭和47年2月に「西原町東」で生まれる。結婚を機に四丁目に移り住み、上里町で暮らし続けている。平成2年にオープンした上里ゴルフ場にオープン当初から勤めている。

ちょゆづいいまち

上里町は、都会でも田舎でもない「ちょゆづいいまち」だと思います。

町内にはJR高崎線や関越自動車道が通っていて、都会へ遊びに行くにも、自然を満喫したいと思ったときにもアクセスしやすい環境です。また、必要な物はほとんど町内で調達できます。仮に町内に無かったとしても、近隣の市町まで足を延ばせば、簡単に手に入れることができます。

私が小学生の時に通っていた上里東小学校までの通学路は、曲がりくねった道でした。雑木林を抜け、牛小屋を横目に歩くなど、自然を感じながら他の生徒と一緒に笑顔で通学していたことを今でも覚えています。今では、土地改良や駅南開発による整備が進み、当時の面影はほとんど無くなり、住宅地と農地が区分された、生活しやすい環境に様変わりしましたね。

この50年でたくさんさんの住宅や公共施設、ショッピングモールなどが建設され、町の景観は大きく変わりましたが、町内の綺麗に整備された田園風景を見てみると、「自然と開発」がバランスよく進められていることを実感し、それが上里町の一つの魅力だと感じています。

住み続けたいまち

～わたしが感じる町の強み～

上里町のはじまり

昭和28年(31年)に、昭和の大合併がありました。戦後の新憲法のもと、地方自治の確立を目指して、消防や社会福祉、保健衛生などの事業が住民に最も身近なものとなるよう整備するため、国の主導により全国一斉に行われました。七木村、神保原村、長幡村、賀美村の4つの村が合併し、昭和29年5月3日に上里村が誕生しました。合併当時の総人口は1万6979人であり、今の上里町の人口のほぼ半分です。その後、昭和46年11月3日に村から町となり現在にいたっています。

上里町の変化

昭和46年11月3日の町制施行以来、令和3年11月3日をもって上里町は満50年を迎えます。今月の特集では50周年を記念して、上里町と同時期に生まれ、町内に住み続けている方々に「上里町の変化」についてお聞きしました。上里町と同じ年月を過ごしてきた方々のお話とともに、町が歩んできた50年の軌跡を振り返ります。

広報かみさとの変化

昭和46年11月3日に町制施行以降、初めてとなる広報かみさとが発行されてから50年。広報かみさともこの50年で、大きく変化しました。

初めてとなる広報誌は、1色刷り、裏表の2ページ。紙面では、上里中学校で開催された町制施行式典の様子や、公募にて決定した「町章」の記事などが掲載されていました。今では、カラーページやページ数も増え、町民の皆さまへの取り組む施策やまちのわだいななど、幅広い情報をお届けしています。



▲現在の広報誌



▲町制施行後初めての広報誌

淋しい変化

私が小学生の時は、日が暮れるまで友達と遊んでいました。平日の学校帰りや午前中で終わる土曜授業の後、足早に自宅に帰ったのも束の間、親への挨拶も早々に、友人たちと近所の空き地や神社に集まり、追いかけてこや野球などをして時間を忘れて夢中で遊びました。

しかし、今は外で走り回る子どもたちをなかなか見かけません。時代が変わり、より暮らしやすい生活環境に整備された一方で、自由に遊べる場所が減ってしまったように感じます。また、室内で遊べるゲームなど、「遊び」の選択肢が増えたことも原因だと思います。生活が便利になることで失われていくものがあることに、少し淋しさを感じています。

交流の場

近年は、地域の交流の場が少なくなってきています。昔は、ソフトボールの行政区対抗大会が開催されるなど、地域の交流が盛んに行われていました。

「町内小学校対抗運動会」などを開催すれば、それを見に来る親同士の交流の場に繋がるのではないのでしょうか。

災害のない町

上里町の魅力は、「暮らしやすさ」にあると思います。私は20歳から消防団に所属していますが、幸いなことに今まで大きな災害を経験したことは一度もありません。

平和で何事も無いのが上里町それが町の「強み」であり、住み続けたいと思える理由です。



高杯 末さん(本郷一)

昭和46年7月に「横町」で生まれる。小さな頃から物造りに興味があり、高等学校卒業後、実家の(株)高杯工務店に勤め始める。以降32年間、大工として活躍。現在、上里町消防団第3分団の分団長を務め、平常時・非常時を問わず、町民の安心と安全を守るなど、地域に根付いた活動も精力的に行っている。

暮らしやすさを実感

生活で感じる変化

私が大学生だった頃、埼玉県内に住んでいた同級生に「上里町に住んでいる」と話してもなかなか認識してもらえませんでした。「本庄市の隣町」とか「群馬から橋を渡った最初の町」と伝えて初めて認識してもらえた記憶があります。でも、最近では、上里スマートICの開通やサービスエリア周辺の整備などにより、当時の友達から「最近の上里町すごいね」と言われるようになりました。

また、今ではあたり前のように、町内にたくさん大型スーパーがあります。昔は大型スーパーは無く、本庄市や藤岡市まで買い物に行っていました。当時は夜に買い物に行くなんて考えられませんでしたね。昔と比べてみると、生活の利便性の向上を感じています。



植村 弓子さん(本郷一)
(旧姓:金井 弓子さん)
昭和46年12月に「本郷一」で生まれる。保育園で行われていたピアノ教室をきっかけに音楽と出会い、尚美学園卒業後、自宅で「ユミ音楽教室」を開く。現在は、子ども達に音楽の楽しさを教えようと、上里室内アンサンブルエトランジュ(K.C.E)に所属し、地元を中心とした演奏活動を行っている。

安心できる生活

音楽教室をやっていると、生徒の親御さんなど、多くの方と交流を持つ機会があります。交流をおして情報を交換したり、悩みを相談し合ったり、いざという時に助け合える繋がりが生まれると思っています。以前、町外から移住してこられた知り合いに「なぜ上里町に住むことにしたのか」を尋ねたところ、「犯罪が少ない町だから」と答えていました。私自身、2年程しか上里町以外で生活をしたことがありませんが、都会に行けば行くほど、人口が増え、地域の繋がりが希薄化し、犯罪が増加するイメージがあります。「安心して生活できる」ことは、永住を決めるうえで大きな選択肢の一つだと感じました。今後増々、「生活しやすい上里町」になることを期待しています。

上里町町制施行(昭和46年) 公募により町章が決定

「上」を4つ用い、それら4つが円になっています。4つの「上」は、上里町が七本木村・神保原村・長幡村・賀美村の4つの村の合併によりできたものであり、かたどられていた形「円」には、人の和と円満という意味が込められています。

町章は一般公募により、多くの応募作品の中から、現在の町章が選出されました。



町制施行式典開催

昭和46年11月3日に町民体育祭と兼ねて町制施行式典が挙行されました。当日は、商工会から寄贈された300発の花火が、町長の町制施行宣言と同時に打ち上げられ、盛大に町制施行を彩りました。



町制施行20周年(平成3年) 夏まつりかみさと, 91

平成3年8月14日(水)に上里中学校にてイベント、8月16日(金)に忍保河川敷にて花火大会が実施されました。イベント1万3000人・花火大会3万人の大観衆を集め、大成功に終わりました。



中学生海外派遣事業

上里町で初となる中学生の海外派遣事業を実施。第1回目の当事業には、上里中学校から10名・上里北中学校からは6名の生徒が参加し、シンガポールにて現地の中学生との交流や施設の視察を行いました。



～繋がりをもち続けたい～

町制施行30周年(平成13年) 新庁舎開庁

平成13年11月3日(出)、ワープ上里にて「新庁舎竣工式典」が開催され、11月26日(月)から新庁舎での通常業務が開始されました。



町制施行40周年(平成23年) こむぎっち誕生

町制施行40周年を記念して、上里町マスコットキャラクター「こむぎっち」が誕生しました。



町制施行50周年(令和3年) 記念動画の作成

11月3日(水)に開催予定の記念式典で放映するとともに、より多くの皆さまにご覧いただけるよう、この度、町のホームページで公開させていただきます。ぜひ、ご覧ください。



▲上里町HP「記念動画」

町勢要覧の作成

これまでの町の歩みと、現在の町の様相を視覚的にわかりやすく構成し、町内外の方々により町の魅力を知ってもらうために、「上里町町勢要覧」を作成しました。

今月の広報誌とともに毎戸配布させていただきますので、ぜひ、ご覧ください。なお、町のホームページにも掲載しております。



▲上里町HP「町勢要覧」



▲動画の中に50のこむぎっちが登場します。楽しみながら最後まで動画がみれるよう工夫されています。

ふれあいフェスティバル

平成13年11月3日(出)、町制施行30周年記念・庁舎建設記念事業「ふれあいフェスティバル2001」が新庁舎周辺で開催され、約1万人が来場しました。



「開運!なんでも鑑定団」公開収録

平成23年9月11日(日)、テレビ東京の人気番組「開運!なんでも鑑定団」の公開収録がワープ上里で行われました。

